

文章題テスト・小説(2)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おばあさんのやせた指が、白い鍵盤けんばんにふれたとたん、かおるはびっくりしておばあさんの手を見ました。

こんなやさしいピアノの音を、かおるは聞いたことがなかったのです。ほろほろと音は流れて、まるで煙けむりのように部屋じゅうをただよっているようでした。なんとという曲か、かおるが初めて耳にする曲でした。【ア】

かおるの耳もとで、静かな風のささやきが聞こえ、かおるはたちまち緑の草原に立っていました。草のさらさらいう音や、虫の羽音はわたがぶんぶん鳴っていました。空は白い雲がはねかえるくらい青い空で、そこを何かの鳥たちが、きしきし羽の音をさせながらいそいで飛んでいきました。最後に馬が草原をかけぬけ、ずっと遠くまで走って消えていきました。【さあ、どうだったね。こんどはあなたの番ですよ。】

おばあさんがピアノの前に立ってこういったとき、かおるははっとしておばあさんの顔を見ました。おばあさんの顔は、若々わかわかしく見えました。窓まどからはいつてくる風を気持よさそうに受けながら、おばあさんはほほえんでいました。

【さあ、こんどはわたしに聞かせておくれ、あなたのピアノを。】

おばあさんにこういわれて、かおるは魔法まじにかかったようにすっとピアノのいすにすわりました。ところが、指をピアノの鍵盤におろしたとたん、すこしもひきたい気持がないのに気づきました。

「わたし、だめです。このごろあんまりよくひけないんです。ピアノの先生もよくまちがえるっていったし、なんだか楽しくなくなっちゃったんです。」と、かおるはいいました。「それはこまったね。こんな楽しいものがきらいになったのかねえ。」

おばあさんは、もう一ついすをピアノの前に持ってきて、じぶんがすわりました。【イ】「いっしょにひいてごらん。なにもかたくなることはないんだよ。気持を楽にして。」と、



おばあさんは軽くピアノを鳴らしました。

おばあさんに手をひかれていたような気持ちで、かおるはひきはじめていました。でも、そのうちに、こころよくひびく音が、おばあさんのひく音なのかじぶんのひく音なのか区別がつかなくなってきました。ひきながらかおるは、じぶんの指がこんなに自由に動くのはなぜだろうと思いました。だんだん自信をとりもどすと、もうひとりでひいている気持ちでした。

ひき終わったとき、かおるはおばあさんの顔を見ました。【ウ】

「ちゃんとひけるじゃないかい。これからもちよいちよいいおいで、いっしょにひくのは楽しいよ。」と、おばあさんはいいました。

かおるはうなずきました。ほんとにそう⁴したいと思ったのです。

(征矢 清「かおるが見つけた小さな家」による 一部略)

1 次の文を本文中にもどすとすると、どこに入れるのが最もふさわしいですか。文中の【ア】～【ウ】から選びなさい。

すると、そこにいるおばあさんが、もうずっと
まえからよく知っている人のような気がしました。

2 線「かおるはびっくりしておばあさんの手を見ました」とありますが、それはなぜですか。

最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア ピアノをひくおばあさんの指が、あまりにもやさ細っていたから。

イ おばあさんのひくピアノの音が、とてもやさしい音だったから。

ウ おばあさんのひく曲が、かおるの知らないむずかしい曲だったから。

エ 草原にいる自分を想像していたのに、急に現実^{そうそう}にひきもどされたから。



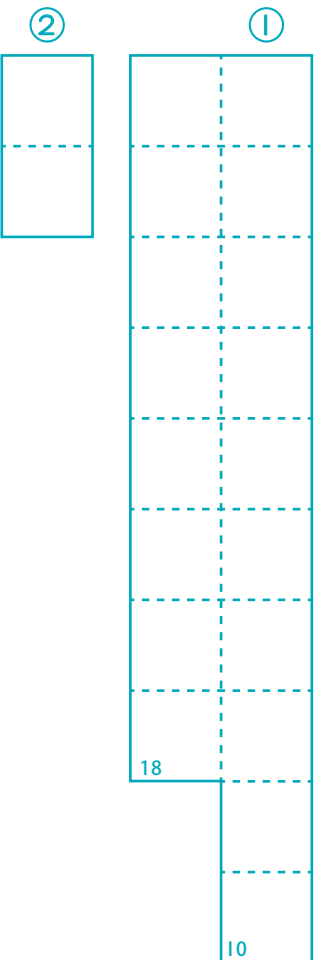
3 線2「ずっと」は、どの言葉をくわしく(修飾)していますか、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア かおるは イ ピアノの ウ いすに エ すわりました

4 線3「すこしもひきたい気持ちがない」とありますが、このあとおばあさんとピアノをひき

はじめてから、「かおる」の気持ちかどのように変化したかを、次のようにまとめました。

ひきはじめ	おばあさんに手をひかれていような気持ち
中ごろ	① ② を回復していく と思う
終わりごろ	ひとりひいている気持ち



5 線4「そっしたい」の「そっ」は、どうすることを指していますか。次の文の□に当てはまる言葉を、十字でいど書きなさい。

おばあさんの家にまた来て、

□□□□□□□□□□
10
こと。

